

岡山

岡山支局

〒700-0904 岡山市北区柳町1の1の17
 TEL086(231)2111
 FAX086(231)2129
 okayama@mainichi.co.jp

倉敷支局 086(424)2221

【広告問い合わせ】

ビザビコミュニケーションズ
 毎日新聞チーム 086(224)7175

【購読問い合わせ】

0120-468012

マーク・矢崎
20日

「古民家に花開く」ドンナ・ギリス作陶展 26日(木)〜12月1日(火)、総社市総社2の旧堀和平邸。米オハイオ州出身で、瀬戸内市長船町に窯を持つ備前焼作家ドンナ・ギリスさんの個展。同展実行委の井上さん(0866・2533・9122)。写真は展示作品。

画の新作30点。佐藤常子染織展―自然に寄り添う 27日(金)まで、中区古京町2の岡山朝日高校・創立110周年記念同窓資料館展示室(086・272・127

白備前 木村玉舟 陶彫展 24日(火)まで、北区町2の天満屋岡山店5階美術画廊(086・231・7523)。日本陶彫会副会長の木村さんが来年のえと、さる(猿)をモチーフに制作した白備前の陶彫約40点。写真は「猿」。

古町(こまち)やKomachiya Art project 21日(土)〜23日(月)10〜15時、鴨方町鴨方のかもがた町家 県林政課(086・226・7451)。

おかやま アート事情



柳生 尚志

「めづりあう時間」とを受賞した。

題した第5回I氏賞受賞作家展が県立美術館で開催中だ。絵画の加藤竜さんと写真の下道基行さんの2人展。ともに1978年生まれという充実期の作家が、受賞を機に一段と飛躍した姿を見せる展覧会となっている。

I氏賞は川上郡成羽町(現高梁市)出身の伊藤謙介氏が、県ゆかりの若手美術家育成のために寄付した基金を基に設けられた賞。2007年から毎年、大賞(300万円)を1人に、奨励賞(100万円)を2人に贈り、創作活動を支援している。加藤さんは11年度、下道さんは12年度に大賞

を受賞した。現在ベルリンで活動している加藤さんの絵画は赤、ピンク、黄、青など絞り立てのような艶のある色彩の乱舞にまぶさ奪われる。だが立ち止まって眺めると建造物や動物、鳥類、木々、戯画化された人間など地球の情景が描き込まれている。彼のテーマは「環境問題」なのだ。

花開くI氏賞の作家たち～加藤竜・下道基行展



自作について語る加藤竜さん(左)自作への思いを話す下道基行さん(右)



く、進む環境破壊に怒りを抱いたことからテーマが決まった。展示された新作15点は、いずれも大気汚染、資源の枯渇、原発汚染など環境問題ばかり。当日はパフォーマンスも行われた。フォーマンスも行われたが、環境汚染に対する悲しみや怒りを芸術化するために音楽を流しながら気分を駆り立て、入念な作業や爆発的なタッチを調整しながら仕上げている。所に見つけた鳥居。用水路に置かれた鉄板は小さな橋。日常の何気ない風景や事物も数にまとまると社会的なメッセージとなる。

彼は写真の持つ「記録性」を忘れず、さらに写真集にして伝えるという行為にこだわっている。I氏賞の賞金を基に自ら出版社を立ち上げ、写真集「torii」を発売、第2写真集「bridge」は特別なケースをし

「めづりあう時間」展は12月13日まで。一般350円、大学生250円、65歳以上170円、高校生以下無料。また、奈義町現代美術館でも12月13日まで下道基行「海を眺める方法」を開催中。(美術ジャーナリスト)

つらえて会場に展示している。加藤さんは「メッセージ性が強い作品だが、同時にアートとして成立していなければ。幸いドイツでは評価され、個展も度々開き、生活も安定した」。

下道さんは「小さな出版社は家庭菜園のようなもの。迷いながら作り続け、その行為が自分の作品になればと思う」と語る。

I氏賞受賞作家が新しい歩み始める。期待と予感を感じさせる展覧会である。